

コープふくしま大震災対策ニュース 【がんばっぺ編 4】	2011年3月27日発行
	対策本部にて取材中の ライター秋山作成

1. 28日より共同購入用チラシ配布

共同購入がいよいよ再開の様です。コープふくしま南支部にて、朝からチラシとOCRの帳合いが始まりました。幸い機材については地震の影響はなく、いつも通りの作業が出来ているとのことでした。28日から31日にかけて組合員さんへのお見舞いと兼ねて配布していくそうです。

相双地区ではスーパーなどが閉まっている地域も多いので、共同購入の再開は心強いことだと思います。

着々と準備する

コープふくしまのスタッフの皆さん。



2. 大阪いずみ市民生協より支援のガソリンが届きました



26日の朝9時頃、大阪和泉生協よりドラム缶20本分のガソリンが到着しました。物資の入りつつある福島市内ですが燃料だけは別で、市内のガソリンスタンドには今でも数キロの車列ができています。緊急車両限定のガソリンスタンドもあるのですが、車種によって給油できたりできなかったりすることもあるようです。支援のガソリンが届いたコープサービスのスタッフ「待っていましたよ～」の声

が。灯油もまだまだ足りないようで、市内に行く人に聞くと、「それでもガソリン、軽油は入ってきている。どちらかという灯油のほうが後回しになっているような気がしますね」という声もありました。

3. 川俣町役場、飯館村役場、南相馬市役所を訪問、ヒアリング

26日午後より、コープふくしま加藤専務補佐、日生協照井総合マネジメント室長による3市町村へのヒアリングに同行させていただきました。

川俣町は一時6000人ほどの避難者であふれましたが、今は400人程度（主に浪江町の方）に落ち着き、今は避難者の人々の自治管理に移りつつある状態。対応し

てくださった古川町長は「物資は整いつつあります。でも、長期戦になりそうなので、避難所内の家族間の目隠しになるパーティションのようなものが準備できないか考えています」とのことでした。一部が原発から30キロ圏内にかかる飯館村は、現在避難所を閉鎖していました「それでも住民の方とはコミュニケーションをとりつつ、不足物資の把握は取り組まれていて、随時届いている支援物資を配布しているとのこと。集団避難を選択も生まれつつありますが、菅野村長は「現状を存続させるよう、頑張っていますよ！」と明るい表情でした。南相馬市には人が戻りつつあるようです。避難先での生活に疲れて、というのが理由とのことでした。ただ、スーパーなどはほぼすべて閉まっていた。ガソリンと元気がある方は、隣の相馬市まで行って買い物できているようですが、それ以外の方は「物資を強く必要としています」（藤田商工政務課長）とのことでした。



市役所から海岸方向に向かい津波被害地を視察しました。言葉が出ません。

